

読者のひろば

「戦争遺跡」を
未来に伝える

高谷和生58歳公務員
(玉名市)

68年前の6月22日、一人の若人が僚機7機とともに都城東飛行場(宮崎県)を出撃、沖縄西方海上で特攻死した。若人は

戦後68年を迎える今夏、加害と被害を歴史の事実としてとらえ、県内のネットワークを共に広げていきたい。

者の柳田國男は「歴史は必ずまた反省の学でなければならぬ」と述べている。特攻で亡くなられた多くの方々の「生の軌跡」を今一度振り返り、二度と起こさないと強く思いのもとで行動することが待たれている。

戦後68年を迎える今夏、加害と被害を歴史の事実としてとらえ、県内のネットワークを共に広げていきたい。

菊池市限府出身で陸軍特別操縦見習士官として入隊後、最新鋭機の四式戦闘機疾風に搭乗した第二十七振武隊員、原田菜さん、享年26歳であった。本紙で「伝えたい私の戦争」の連載が始まった。一人一人の戦争体験に光を当て、平和の意味や日本の未来について考える企画という。民俗学

員後、自宅の裏山に残された巨大な掩体壕を解体し、木製部材を使って納屋を建てた青年。このように多くの証言者も会に参加されるといふ。生の証言を「戦争遺跡」に重ね、未来に伝えてほしい。

「読者のひろば」への一般投稿、若者コーナーは450字程度、主張・提言は600字程度。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すこともあります◇原稿は返却しません。二重投稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用。掲載分には薄謝を送ります。あて先は①郵送 〒860-8506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者のひろば」係 ②ファクス 096(363)1268 ③Eメール hiroba@kumanichi.co.jp

投稿される方へ